きここち。

Yamane_mokuzai quarterly magazine 'Kicocochi' 2018 / Autumn

山根木材

Feature!

Tsuru and Wood house kicocochi.

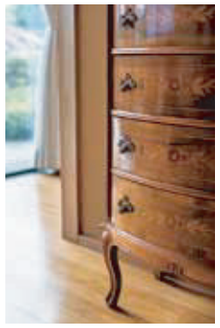
家は、風土。

—木と暮らす。— 実例 ⑦

特集 鶴と木の家。

両親が残してくれた
和風建築のモダンな家。
70歳を過ぎたご夫婦が
住み慣れた家を離れて
ここに移り住む決意をした。
色濃く残る両親の暮らしぶり。
父母の面影を感じながら
その思いを受け継いでいく。

庭を見渡す和室の続き間に腰掛けるご夫婦。美しく磨かれた床と窓に、両親の端正な暮らしぶりが垣間見える



廊下にはチェストやテーブルセットなど、ご両親が使っていたものをそのまま置いている

tobeyaki

石鎚山の石、砥部焼の鶴
父の故郷への思いを感じながら

70代のご夫婦が、この秋引っ越すのは築35年の家。90歳を過ぎて亡くなったご主人のご両親が暮らしていた家だ。庭にある2対の鶴の置き物は、ご主人のご両親の出身地である愛媛県の砥部焼製。清酒「初鶴」の蔵元のお父様が求めたものだという。

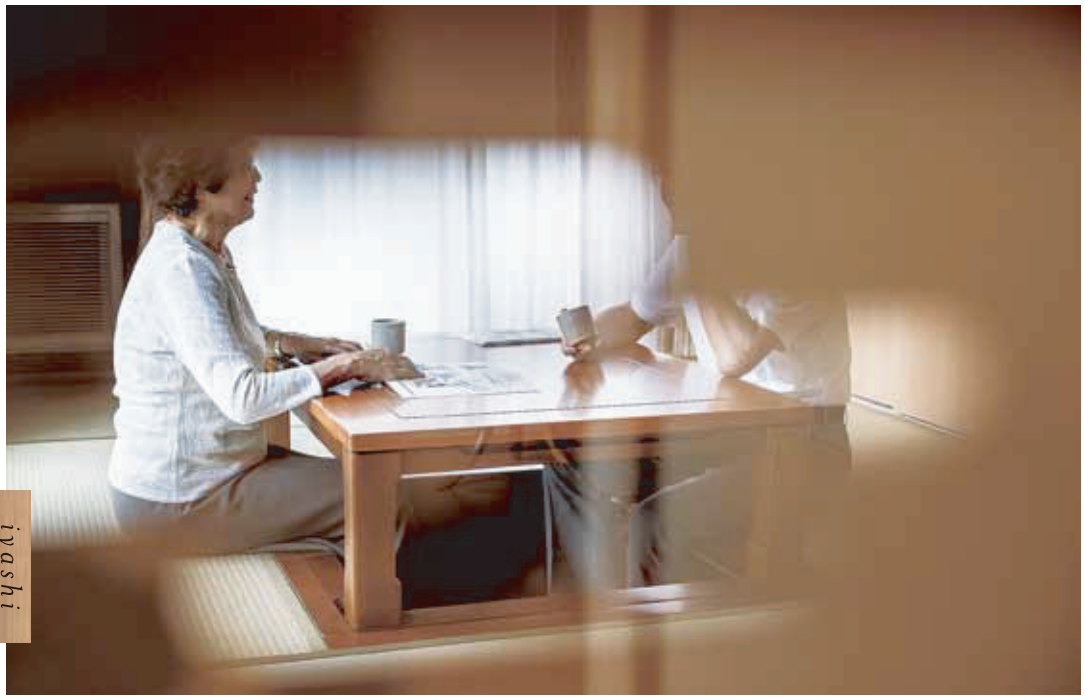
「残してくれたものはなるべく使いたい」と、引っ越しを前にリフォームをしたのは傷みの多いところだけ。よく磨かれた床や窓、茶道をたしなんでいたお母様の水屋だんす、石鎚山から2トントラックでお父様と一緒に持ち帰った庭石など、今にもご両親の息遣いが伝わってくるようだ。

bigaku

無垢の木を使った上質感
ご両親の美学が伺える

Passageway

バスルームと納戸前の廊下にある地袋と障子の窓。プライベートな場所でありながら上質な空間



iyashi

LDKの掘りごたつテーブルでくつろぐご夫婦。
廊下に出るドアには鶴の形がくり抜かれている

一番落ち着くのは
愛する人との癒やしの時間

おしゃれで上質なものを好み、いつも穏やかに笑っていたという亡きお父様。木製のしゃれた洗面台、無垢の米松の引き戸、天井まで届く大きな窓など、お父様のセンスの良さがわかる。

これからのO様ご夫婦の生活の中心は、庭を見渡す畳敷きのLDK。大きな家でありながら、この小じんまりとした部屋が一番落ち着くのは、ご両親もきっとそうだったのだろう。今なお現役で仕事を務めるご主人は、この掘りごたつ式のテーブルで晩酌をしながら、奥様と2人でリラックスするのが楽しみだと笑う。

「良い木を使った良い家。だからとても落ち着きます」とご主人。35年経ってもそう感じられるのが本当の豊かさなのだろう